

会議録

会議の名称	第3回 清須市総合計画審議会
開催日時	令和元年7月17日(水) 午前10時30分～午後0時27分
開催場所	清須市役所 南館3階 大会議室
議題	1 開会 2 議事 清須市第2次総合計画 後期基本計画(素案)について 3 閉会
会議資料	会議次第、委員名簿、配席図 〔会議資料〕 資料1 清須市第2次総合計画 後期基本計画の策定のながれ 資料2 第2回 総合計画審議会における主な意見等 資料3 令和元年度 まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 における主な意見等 資料4 若い世代へのまちづくりに関するインタビュー結果報告 資料5 第6回(平成30年度)市民満足度調査報告書(中間まとめ) 資料6-1 清須市第2次総合計画 後期基本計画(2020-2024)(素案) 資料6-2 清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略2020 資料6-3 後期基本計画における37の施策
公開・非公開の別(非公開の場合はその理由)	公開
傍聴人の数	0人
出席委員	福田委員、水野委員、加藤委員、飯田委員、時田委員、堀田委員、後藤委員、渡辺(玲)委員、野田委員(会長)、水谷委員(副会長)、山田委員、齋藤委員、前田委員、高山委員、渡辺(康)委員
欠席委員	河野委員、浅田委員
出席者(市)	宮崎企画部長、平子総務部長、栗本市民環境部長、河口健康福祉部長、永渕建設部長、吉田会計管理者、加藤教育部長、三輪監査委員事務局長
事務局	〔企画部企画政策課(企画政策係)〕 後藤課長、服部課長補佐兼係長、河村副主幹、石附主査

1 開会

(後藤企画政策課長)

皆様おはようございます。

定刻となりましたので、ただ今から第3回 清須市総合計画審議会を開催させていただきます。

皆様には大変お忙しい中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

私は企画部企画政策課長の後藤と申します。よろしくお願いいたします。

それでは、開会に先立ちまして、委員の出席状況についてご報告をさせていただきます。

本日、河野委員、浅田委員から欠席の報告を受けておりますが、委員の過半数以上の方が出席をされております。従いまして、清須市総合計画審議会設置条例第6条第2項の規定により、本会議が成立していることをご報告させていただきます。

なお、この会議につきましては、清須市附属機関等の会議の公開に関する要綱第3条の規定により公開会議となっておりますので、よろしくお願いいたしますと思います。

また、本日の審議の時間につきましては、2時間程度を予定しております。よろしくお願いいたします申し上げます。

2 議事 清須市第2次総合計画 後期基本計画（素案）について

(後藤企画政策課長)

本日、ここで永田市長の挨拶を予定しておりましたが、前の会議が長引いているため割愛させていただきますので、ご了承願いたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは早速、会議に入らせていただきたいと思います。

ここからの会議の取り回しにつきましては、野田会長にお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

(野田会長)

皆様おはようございます

ちょっと前回から時間があきましたけれども、本日も活発な議論をお願いしたいと思います。内容的に盛りだくさんなので、アンケートとかインタビューの結果であるとか、それから計画の素案についてご意見いただくということでもありますので、ぜひ活発にお願いできればと思います。

まずは、毎回会議録の確認をしていただく委員さん、会議録署名委員の指名をさせていただきます。順番からいきますと、今回の会議録についてご署名いた

だく会議録署名委員につきましては、時田委員と堀田委員にお願いしたいと思いをします。どうぞよろしくをお願いします。

それから、議事に入る前に次期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を含めた「第2次総合計画 後期基本計画」の策定のながれについて、事務局からお話いただきたいと思いをします。資料1についてですね。どうぞよろしくをお願いいたします。

(石附企画政策課主査)

【資料1を説明】

(野田会長)

ありがとうございました。

この資料1、策定のながれについて皆様からご意見いただきたいと思いをしますけれども、要は今回と次回で事実上の審議がされるということですね。最後の会議は答申についてご確認いただくということでございます。

何かご質問、ご意見等がございましたらと思いをしますが、どうでしょうか。よろしいですかね。

「異議なし」の声

それでは、この内容で結構でございますので、次に進めさせていただきたいと思いをします。異議なしということで承りました。ありがとうございます。

それでは、議事に入っていきたいと思いをします。

本日の議事は「第2次総合計画 後期基本計画(素案)について」ということで、この後、資料6、6-1から6-3を細かく見ていただくのですが、今回と次回の会議で後期基本計画の内容を精査して、固めていくという位置付けであります。

少しずつ区切って見ていきたいと思いをしますので、まずは資料2から資料5まで、すなわち後期基本計画の中に入るまでの部分について、インタビューとアンケートを行いましたので、その内容について先にご説明いただいて審議に入りたいと思いをします。

それでは事務局、資料2から資料5について説明をお願いします。

(石附企画政策課主査)

【資料2～資料5を説明】

(野田会長)

ありがとうございました。

今の説明のうち、資料4のインタビューについては水谷副会長からご説明をお願いします。

(水谷副会長)

資料4をご覧ください。愛知医療学院短期大学の3年生、今年の春に卒業された方々ですね。その10名の方にインタビューを行いました。こちらにはその結果がまとめてあります。

簡単にご紹介させていただきますと、資料4の2ページの写真のとおり、皆様和やかに、非常に和気あいあいと清須市の未来について語ってくださいました。学生らしく、住んでみて住みよい、そして名古屋に行けるのが便利というその辺りから始まりまして、もうちょっとおしゃれなところがあると良いな、友達同士で遊べる場所、特に小さい子どもさんとか小学生は公園があって良いのだけれども、若い学生たちがエネルギーを発散させるような場所があると良いなという、そういうことを希望されておりました。

また、非常に地域に対して愛着を感じていらっしゃって、お祭りとか地域の方々と集える、そんな機会があると良いなというところは、少し驚きな感じでありました。

これからまちづくりを行っていく際には、若い学生さんに声をかけていかれるとよろしいのではないかなと思います。このようなインタビューの機会や、清須市の未来について話し合う機会ということがそもそもあまりなかったようで、今回は非常にまちのことを考える良い機会になった、清須市の明るい未来をイメージできたので実現していきたいという、そんな声もいただいたことは非常にありがたかったと思います。以上です。

(野田会長)

ありがとうございます。今のご意見も踏まえてですけれども、何か自由にご質問、ご意見をいただければと思います。いかがでしょうか。どなたでも気軽にいただければと思います。山田委員、お願いします。

(山田委員)

山田でございます。インタビューの資料4を見せていただいたのですが、思った以上に好印象を得ていただいているというのが実感です。私の自宅から近い所に医療学院の施設があったりして、若い方が通られるのはよくお見受けするのですが、交流することはほとんどなく、どのような思いを持ってみえるのか分からないというのが実際でございます。

それでいうと、以前からお話が出ております交通の便が非常に良くて、名古屋へそれこそ10分もかからずに出られるという環境がどれほど良いのかということが

はっきり分かるかと思います。これを利用するという表現はいけませんけれども、ここから発展させていくことが人口増加ですとか、定住ということにつながっていくものであらうと感じました。以上です。

(野田会長)

ありがとうございます。今のご意見も踏まえて、計画を作っていただきたいなと思います。他にどうでしょうか。高山委員、お願いします。

(高山委員)

高山でございます。市民満足度調査の資料5、こちらの9ページに満足度の時系列の推移が載っているのですが、ちょっと先走った質問になってしまうかもしれませんが、後で出てくる資料6の37の施策のところにグラフが載っていて、大体これと似たような格好をしているのですね。特に、後のところで満足度が一つの指標になっているものですから、このアップダウンというのは、例えば「どちらともいえない」が大きく増えているのが原因だとか色々あると思うのですが、その辺りはどう見られているのかということをお聞きしたいと思います。

(野田会長)

これは両方とも同じデータを使っておりまして、市民満足度調査の資料5を見ていただきますと、9ページからの全てのグラフの下に「『満足』と『やや満足』の割合の合計値で計算」と書いてありますので、「どちらともいえない」は全く考慮していません。要は5段階の評価の「満足」と「やや満足」だけを取っているという、そういうグラフでございます。

(高山委員)

市民満足度調査は隔年の実施ですけれども、平成20年から上がって、また段々下がってきていますよね。後の37の施策のところで、皆似たような格好をしているのです。違ったものがあれば、ここは頑張っているなとか思っているのですけれども、この辺りの上がったたり下がったりの要因、全体的なこの辺りの要因というのはどうでしょうか。

(野田会長)

私からよろしいでしょうか。一応私も事前に資料を拝見させていただいておりまして、前回の総合計画を策定する際に、満足度で全ての施策についてきっちり見ようと、そんな市区町村は他にあんまりないのですけれども、ちゃんと見ましょうということでやってみたのですね。確かに前半、おっしゃるように「満足」と「やや満足」だけを取っていくと、平成24年がおおむねピークになっていまして、そこ

から落ちていくという感じに全部の施策がなっているのです。

調査の聞き方について、平成 24 年はどういうふう聞いたのか、私もよく理解はしていないのですけれども、近年だけ見ても、平成 28 年の前回調査と一緒にもしくは低くなっているところが結構多いのですね。この要因は、確実に言えることではないのですけれども、一つは単純に行っている政策について悪い評価であった、要は業績が良くなかったということが一つです。

ただ、実際にこれまでの経緯を見ながら、供給量を調整したりとか、質を高めたりとか、色々な説明をしたりということをしていますので、なかなか努力の甲斐が見られないなという部分はあるのですけれども、そうするとそれ以外の要因としまして二つ考えられるかなと議論していたのですが、一つは外的な要因ですね。要は満足度とサービスは全く関係なくて、全国的にもものすごく不安になっているような要因、例えば交通事故が本当に大変ですよと、色々なところで色々な交通事故が起きていることについてクローズアップされると、交通安全、交通事故とか、公共交通に関するところの重要度が上がったりするというような部分があったりします。もしくは、児童に対する虐待があったりとか、そういうところがクローズアップされると、そこに対する満足度が直接関係なくても下がってしまうということですね。そういうことも考えられるかなと思います。

ただ、恐らくですけれども、これが原因じゃないかなということで今ちょっと調べてもらってはいるのですけれども、最初に事務局からご説明いただいた資料 5 の 4 ページを見ていただきたいのですが、回収状況を見てみると、前回と比べても若い世代が多いというのがあるのですね。とりわけ 30 代の女性が前回よりも 15 ポイントくらい多い。全体で 5 ポイントくらいしか多くなっていないにも関わらず、30 代の女性が今回はものすごく多く回答しているという状況なのです。これは要するに市民の構成が結構大きく変わるといふ、そういう局面を表わしているというふうに思うのですが、恐らくですけれども、新しく入って来られた方ではないかなと、しかもお子さんがいらっしゃったりとか、生活実感がものすごくある方で、新しく入って来られて、コミュニティについて溶け込める機会をまだ十分持っていないような方々が多いのではないかなと推察しているのですね。そういう方々の満足状況を分析してもらおうかなということでお伺いしているところです。

あとは、全般的に女性が多いというのがあるので、生活実感に基づきながら厳しく批判を言っていたらいいことになるとは思いますけれども、とりわけ 30 代女性を始めとして多くなっているかなというふうには今は考えております。事務局からもし何か補足があればと思いますが、どうでしょうか。

(石附企画政策課主査)

今野田会長が言われたとおり、その要因が大きいのではないかなと事務局でも考えているところでございます。

こちらが満足度として、単純に「満足」と「やや満足」の合計の数値の推移を示したものですけれども、次回の審議会ではこれを指数化したもの、要は満足である方が5点、やや満足の方が4点、どちらともいえない方が3点、やや不満の方が2点、不満の方が1点という形で指数化して状況をお示ししていきたいと思っています。そうしますと、全体的に満足度が下がっている状況にあるのですけれども、指数として見れば、前は「不満」であった方が今回は「どちらともいえない」に振れたりとかそういう状況がありますので、おおむね横ばいの状況になるのかなと考えております。

この回答結果を見る限り、例えば公共交通のように重要度がすごく伸びている、顕著に伸びが出ているような施策もあつたりしますので、その辺りは状況を見て追っていききたいということがあります。

それに加えて、やはり市が重点的にやっている施策と、あとはそれに対する満足度、重要度の関係というところも追っていききたいと思っております、それを追っていくに当たっては、回答した理由ですね、その中身も詳しく追っていただけらなということを考えております。

(野田会長)

ですから、「どちらでもない」を含めた、全部の意見を含めた指標化もやってもらうということで今検討しているのですけれども、今のところそういうことじゃないかなと思っております、同じ問題認識をしています。

(高山委員)

ご丁寧な説明ありがとうございました。

(野田会長)

他にどうでしょうか。資料2は総合計画審議会の意見ですね。資料3については、総合計画に含まれる、人口に注目したまち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議の意見です。それとインタビューとアンケートの結果。これらを踏まえて、続く資料6の1、2、3の後期基本計画の素案に入っていくのですけれども、どうでしょうか。よろしいですかね。

もしございましたら、また後でもご意見をいただければと思います。

今回は盛りだくさんなので、先に進めさせていただきたいと思います。どうもありがとうございます。

そうしましたら、続いて後期基本計画の素案について審議を進めてまいりたいと思います。

資料6-1から資料6-3まで、続けて事務局から説明をお願いします。

(石附企画政策課主査)

【資料6-1～資料6-3を説明】

(野田会長)

そうしましたら、まずは資料6-1について、人口、世帯、地価動向の現状と見直し、それから土地利用方針、また全体の構成について、ご意見等をお伺いできればと思います。皆様いかがでしょうか。高山委員、お願いします。

(高山委員)

すみません。幾つかあるのですけれども、順番によろしいでしょうか。

最初から見ていくと、1ページの最初のグラフに「総人口（清須市・全国）」と書いてありますけれども、下のグラフに目を移した時に、これは全国のグラフなのか、清須市のグラフなのか迷ってしまいました。4ページの人口の今後の見通しのところのグラフでは、全てのタイトルに「清須市の」という文言が付いているのですけれども、現状のところでは「清須市の」という言葉がないので、できれば付けていただいた方が分かりやすいのかなという気がいたしました。

(野田会長)

これはそうですね。そういうふうに修正をお願いしたいと思います。ありがとうございます。

(高山委員)

一つ教えていただきたいのですけれども、1ページの下側のグラフで、右側のグラフは全国平均と比べて果たしてどうなのかなというところがちょっと疑問に思ったものですから、もし分かれば教えていただきたいです。

それから、三つ目として、3ページの下側のグラフの紫色の「その他」というのは何か、分からないので教えていただきたいなというところです。

それから4ページの下、清須市の人口の見通しのグラフで、ケース②が下に下がっていく感じになっているのですけれども、5ページの将来の出生率の説明のところでは、ケース②というのは出生率が一番高い前提になっていますので、間違いでなければ良いのですけれども、何となくちょっと違和感がありました。出生率だけで人口が決まるものでもないので何とも言えないのですけれども、見比べていて違和感があったので、ここも教えていただきたいなというところです。以上でございます。

(野田会長)

ありがとうございます。そうしましたら順番に、1ページの下側のグラフは全国平

均に比べてという、私はそういう理解をしているのですが、事務局どうですかね。右側は差し引いたものですね。1 ページの右下のグラフは、清須市の人数から全国平均を差し引いた場合に、高齢の女性が多くて若い男性が多いという、そういう分析結果かなと解釈しているのですが、いかがでしょうか。

(石附企画政策課主査)

1 ページの下側のグラフでございますけれども、表の構成上、全国平均との差異を入れることが難しかったので、清須市の数値をグラフにしています。2 ページを見ていただきまして、こちらに年齢3区分別の人口と構成比が出ているのですが、やはり生産年齢人口の割合が高く、老年人口の割合が低いというのが、清須市の人口構成比の特徴であると思っておりますので、このうち男女の中身がこうなっているというところだと考えています。

(野田会長)

分かりました。私が間違えていました。男女差を引いたのが右下のグラフでしたね。できれば全国的な平均と比べて清須市はどうなのかというようなこともご考慮されたらどうかなということですね。これはご検討いただければというふうに思います。よろしいですかね。

(石附企画政策課主査)

そうですね。少し載せ方については考えさせていただければと思います。

(野田会長)

それから、次の3 ページの下側の社会増減数のグラフで、2012 年の「その他」は何かということなのですが、これは転入とか転出以外の社会増減に関わるその他の理由なのでしょうか。これはどういうふうに解釈すればよろしいでしょうか。

(石附企画政策課主査)

こちらは総務省の統計に基づく数値でございます、出典は「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」という調査になっております。3 ページ下段のグラフの中で、2012 年に 1,122 人という数字が出ているところでございますが、こちらは 2012 年 7 月に住民基本台帳法の改正がございまして、外国人の方も住民基本台帳の対象になるということで、この時から外国人の方のカウントが始まったことで大きく増加しています。

(野田会長)

ということは、要は外国人の方が 2012 年の改正に伴って入ってくる、ただカウ

ント上は「その他」に入れて、2013年以降については、もう住民になったので社会増減という形には入らないという、そういう理解でよろしいですかね。

(石附企画政策課主査)

そうですね。この後は外国人住民の方の転入・転出も転入数・転出数に含まれているものとなっております。

(野田会長)

分かりました。高山委員、よろしいでしょうか。

(高山委員)

2012年は「その他」が大きいのですが、他の年も微妙に、2008年から2011年は一番上にちょっとずつ紫色が付いていて、2013年以降は下の方にちょっとずつ紫色が付いているのですけれども、これは何でしょうか。

(野田会長)

確かにそうですね。2011年までは少しプラスで、2013年以降はマイナスになっていると。ですので、住民としてカウントした上で、転入か転出どちらかに含まれるものではなくて、ということですね。

(石附企画政策課主査)

こちらの内容はテクニカルな話になるのですけれども、職権による消除ですか、いわゆる住民基本台帳上のやり取りに伴う移動ということで、純粹な転入・転出ではなくて、その他の理由によるものというところでございます。

(野田会長)

その辺りは、恐らく下に注書きか何か、細かくなり過ぎるのかもしれませんが、一応図表で出てきてしまっているのもので、混乱を避けるために何か書いておいた方が良さそうな気はしますけれども、いかがでしょうか。

(石附企画政策課主査)

そうですね。「その他」というところで整理しているのですけれども、少しその辺りも考えさせていただければと思います。

(野田会長)

分かりました。それから4ページ、5ページですね。ケース①と②。ケース②の方が出生率が高いにも関わらず、4ページでは将来人口が下がっているということ

で、ケース①と②が入れ替わっている可能性があるのではないかということなのですが。

(石附企画政策課主査)

すみません。こちらは誤植でございまして、5ページ中段の出生率の表でござい
ますが、こちらのケース①とケース②の表頭の記載が入れ違っております。

(野田会長)

ということは、ケース①の方が出生率が高いというケースですね。

(石附企画政策課主査)

そうでございます。

(野田会長)

分かりました。ということであれば、グラフを変えるのではなくて、5ページの
表を修正していただくということですね。ありがとうございます。

他にどうでしょうか。どなたでも結構です。土地利用、それ以降の政策の体系、
もしくは全体でいかがでしょうか。山田委員、お願いします。

(山田委員)

6ページ、7ページの地価動向についてですけれども、これも人口の方で全国の
比較があるのであれば、例えば7ページの上のグラフですと、西枇杷島、清洲、新
川、春日という形で、増減というか推移が出ていますけれども、例えば愛知県の推
移とかそういうものが一つあると、比べてどうかということが分かるのではないで
しょうか。全国になるとまた多分大きく変わって、見てもあまり特異的なものもな
いでしょうけれども、愛知県とかだったら少し違うのかなと思います。

(野田会長)

ありがとうございます。上の方か、またどちらかにということでも良いというこ
とですね。下は指数になっているので、全国値を入れられる可能性はあるのですが、
全国的な動向と比べた地価という観点が極めて重要になってきますので、それは確
かに入れた方が良くかなと思うのですが、事務局の方で対応できそうですかね。

(石附企画政策課主査)

そうですね。価格ですとかなり差異が生じる可能性がありますので、指数ですと
か、そちらの方で平均を入れていくということは可能かなと思います。

(野田会長)

ぜひ入れていただくようお願いしたいと思います。

他にどうでしょうか。そうしましたら、また戻ってということもあると思います。とりあえずは、今見ていただいて特に異議なしということによろしいでしょうか。

「異議なし」の声

(野田会長)

はい。ありがとうございます。異議なしということで承りたいと思います。

続きまして資料6-2ですけれども、水谷副会長の方で座長をしていただいています。最初にコメントをお願いできればと思います。

(水谷副会長)

資料6-2をご覧ください。こちらは総合計画に対して、まち・ひと・しごとを一体となって創生していこうという視点から、何を重視するのかということを考えてもの、「まち・ひと・しごと創生総合戦略2020」です。

こちらは市民参画会議、本日渡辺委員にもご出席いただいておりますが、市民参画会議をベースに、3回ほどぎゅっぎゅっと練ってまいりました。

そして同時に、行ったり来たりしておりますけれども、高山委員もご参加いただいておりますが、まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議で、特に経済界の方々と議論を深めてまいりました。

こちらの特徴ですけれども、基本目標が三つございます。この基本目標それぞれに対して、数値目標、また具体的な取組とKPIというものがあるのですが、ぜひ皆様には各団体の代表をされていらっしゃるので、ご専門というか得意な分野からコメントをいただくと非常にありがたいなと思っております。

基本目標①から見ていきますと、資料6-2の4ページに「基本目標① 定住する若い世代をふやす」と水色のタイトルがあると思います。こちらについては、若い世代を増やして、子育てしやすいまちにしていこうということですので、割と分かりやすい、市民目線でも議論しやすい内容でした。

5ページの「基本目標② 市の『強み』を生かして経済効果を生む」という部分では、市民というよりも、どちらかというと商工会の皆様ですとか、信用金庫の方ですとか、企業の方、そういったところのご意見が非常にこちらに反映されております。

具体的に市の「強み」を生かしてというのは、歴史的資源や観光資源、清須市にはたくさんあると思っておりますけれども、それだけではなく、今すでに頑張っている事業者の皆様がさらに輝いていただけるような、そんな施策になったら良いなと思っております。

そこで非常に感じたのが、議論する中で皆様協力してくださるお気持ちがとてもあって、計画を作るだけでなく、それを実行していく時に、ぜひメンバーの皆様にお声掛けをしながら進めていかれると良いのではないかなというふうに思いました。

基本目標③については、8ページに記載がございます。「人を育て・つなげて地域を活性化する」という目標ですが、こちらについてはこれからの部分がございます。各団体を代表される皆様ともぜひつながって、つながったら何が起こるのかという、その分からない部分から一緒に始めていただけると良いのではないかと思います。ぜひご意見いただけるとありがたいです。

数値目標や具体的な取組に対するK P I、重要業績評価指標については、それぞれの目標を達成するに当たって、また取組が達成されているかを検討するに当たって適切な数値目標なのか、また指標なのかというところについては、若干違和感がありました。また関係性についても、数値目標とK P Iの関係性については、このK P Iを達成すると本当に数値目標が達成できるのかという、その関係性については違和感が残るという話がありましたが、この辺りはかなり精査されていて、現実的な指標になっているかなというふうに現時点では思っております。これらを踏まえまして、皆様はどうお考えになられるか、ぜひご意見いただけるとありがたいと思います。以上です。

(野田会長)

ありがとうございました。皆様どうでしょうか。この計画は基本計画の中に入っている人口に注目した計画で、三つの基本目標を設定していますけれども、どんな観点でも結構です。いかがでしょうか。

渡辺康子委員は市民参画会議にご参画いただいておりますが、何かもしあれば。

(渡辺(康)委員)

市民参画会議の方に参加させていただきました。その中で、皆様活発に意見を出していただいて、それぞれ興味のある分野から、防災のことですとか、商業のこと、それからまち全体のこと、子育てのことについて、色々言っていただいたのですけれども、やはりそれぞれ皆様興味のあることの幅が広いので、幅広い意見だったなという印象があります。

私自身ですと、お店をやっているということもあって、地域の活性化については小さな企業ですとか、それから個人経営のお店などの活性化も随分重要ではないかなというふうに思っています。今回そういった取組も少しされていくということなので、大いに期待をしております。

(野田会長)

ありがとうございました。小規模の事業者に対する支援とか、ネットワーク化とかも含めて、積極的に市全体で頑張ってもらえればなと思います。

他にどうでしょうか。飯田委員、お願いします。

(飯田委員)

「基本目標③ 人を育て・つなげて地域を活性化する」ということに関連しまして、先ほど人口の推移等は国勢調査の数値を基に紹介されているわけですが、近年入管法の改正で外国人の技能実習生とかその他色々な方が地域に多くみえるわけですね。そういう方々とのつながり、あるいは育成ですね。その辺りについて何かあればお聞きしたいなと思います。

(野田会長)

重要なポイントですね。近年、外国人の技能実習生も含めて地域に入ってきていますので、その育成なり何らかの対策をされているかどうかということで、どうでしょうか。事務局からお願いできればと思います。

(石附企画政策課主査)

今飯田委員からいただいたご質問につきまして、入管法の改正などもありまして、今後外国人の方が増えることが清須市でも予想されるのですけれども、総合戦略推進会議の中でも、清須市では外国人の方が多いか、少ないのかというような話は出たところでございまして、今具体的な数字は持っていないのですけれども、愛知県内の中でも清須市の外国人住民の割合は低い状況だと認識をしております。働かされている外国人の方が多企業さんがある地域、この辺りですと小牧市さんですとか、高い地域と比較するとやや低い状況にあるというふうに現状は認識しているところでございます。

ただ今後、増加をしていくというのは当然我々も認識しているところでありまして、具体的にこういう施策をやっていくという部分は現在検討している段階で、37の施策では国際交流ということで括っているところではございますけれども、その中で国際交流協会さんと連携しながら、様々な外国人住民の方が定住しやすいような支援ですとか、そういった取組をやっているところでございます。

それ以外に、市の施策の中でも行政サービスのお知らせを多言語対応したり、そういう取組は必要だと感じているところでございます。以上でございます。

(野田会長)

ありがとうございます。非常に重要なポイントですね。住民の姿が今までの想定から大分変わっていく可能性が高いので、しかも今事務局がおっしゃられたように色々な分野に全部波及しますし、例えば最近ちょっと聞いたのは、外国人の方が入

ってこられて学童保育に預けるようになったけれども、多言語で対応できる学童保育の方が通常はいらっしやらないので、対応できていないというようなことが出てきたと聞いていますので、ぜひ想定されながら対策をご検討いただければと思います。ありがとうございます。

他にどうでしょうか。加藤委員、お願いします。

(加藤委員)

加藤でございます。私が担当しているのは観光の方なのですが、この中でかなりの部分で関係していると思っています。

この基本目標、三つの基本目標がそれぞれありますけれども、それが絡み合って観光は成り立っているというふうに私は考えています。

特にこの計画の中に、観光資源の魅力をアップする、そういう具体的なことは書いていないです。それを色々な施策を行っていく上で、少しずつ加味していただきたいと思います。人の面はかなり書かれております。ところが物に対して、展示物とか施設、その辺りのところがちょっと少ないかなという感じがしています。

アクセスの問題なのですが、先ほども言われましたように名古屋と清須の間、約10分で行き来できます。ですが、清須市内におきましての移動方法、あるいはお客さんを誘導する方法、その辺りのところがこれからの細かい点になっていくかなと思っています。

資源の魅力アップと、それからアクセス。これをやっていきますと、お客様がある程度増えてくるだろうと思います。それによって、今度は連絡をしていく道ですね。その場合、店が必要になると思います。立ち寄る場所、あるいは休憩する場所ですね。前回も言ったのですが、お店を開くということは、その人のなりわいとしてやっていくわけですから、なりわいが成り立たなきゃいけない。それだけの人間を今ある清須の資源で出せるかといったら出せないのです、はっきり言わせて。まずは市民の皆様から支持を受けるようなお店を作ってもらい、要するに固定客をまずつかんでください、そういうお店を作ってほしいという、そういう施策がこの中に含まれております。この三つをやっていけば、ある程度は清須市の観光も成り立っていくだろうと、そういうふうに私は考えております。以上です。

(野田会長)

ありがとうございます。重要な視点として、資源の魅力アップ、それからアクセスの向上、それから各店の固定客を安定的に確保するということですね。行政だけではできないこともあるのですが、行政が支援をしていくということで、その三つで考えてもらうということだと思います。

ちなみに7ページのところで、施策501とか施策502ということで、商業、観光業に関して施策と結び付いていますので、ある程度は観光資源の魅力アップみたい

なところにはつながるのかなという気はします。

(加藤委員)

そう思います。それらがうまく噛み合っていけばということですね。縦の関係だけではなくて、横の関係を上手くつないでいく必要があると思います。

(野田会長)

分かりました。その辺りも意識されてご検討いただければなと思います。どこをどうという部分ではないのかもしれませんが、実際に政策を展開する上では、そういった観点があるのとないのとでは全然違いますので、きっちりと連携を踏まえてやっていただきたいなと思います。

他にどうでしょうか。ちなみに商工会の堀田委員、いかがでしょうか。関係する部分があるのかなという気がしますが。

(堀田委員)

私も 10 年くらい前から色々提案をしてきましたのですけれども、なかなかできない理由がありましてね、あまり発言しなくなったのですけれども、商業というのは、鶏が先か、卵が先かの議論になりまして、儲かると見たらいくらでも店はできます。行政がそんなに手をやらなくても、そういう商売をやりたい人が出たいというふうにすればできます。業者が出店したいというようなふうに、人が集まってくるようにまずやっていただけるのが行政なのです。あとは放っておいても、やり手はいっぱい出てきますから、まずは卵をたくさん作ってください。生まれてくる雛が育つか育たないかは、これは次の問題になると思います。鶏と卵を例に挙げればそういうことになりますので、まずは人が集まるようにやっていただきたい。

商売をやる人というのはどうしても投資をするので、それに伴う収入があるかという、商売になるかならないかということになりますので、その辺りです。まずは土地の提供とか、色々な行政の方に手助けしてもらえるところはやってもらいたいですけれども、まずは人が集まるような施策を取ってほしいです。あとは商工会に任せておけば、いくらでも業者は来ますから、やります。以上です。

(野田会長)

ありがとうございます。あまり確度を入念に吟味するというよりは、できるだけ多くの卵を行政が用意していくということで、どれがどう化けるかというのは分かりませんので、できる限り多くの卵を作る。それから、土地を含めた支援ですね。行政特有の支援のあり方があると思いますので、具体的に行っていただければと思います。これはもう計画の中身に入っていきような話ですので、そういった意識でやってもらえればなと思います。

でしょうか。他に何かございましたら。山田委員、お願いします。

(山田委員)

今の商工会の会長さんのご意見、もっともだと思います。それを踏まえてというかどうか分からないですけども、5ページの「基本目標② 市の『強み』を生かして経済効果を生む」というところに数値目標として「市内の創業比率」が出ていて、その基準値が3.96%、これが愛知県平均に比べて1%くらい低いよという話があります。3.96%で何件創業があるのかちょっと分からないということと、それと同時に8ページを見ていただくと、KPIの「創業支援事業による創業件数」が基準値18件、目標値25件というのが出ていますが、これをやっていくと、創業比率の基準値3.96%が、県の平均値以上が目標値ですので、例えば平均値が4.99%であればそれに向かうというようなシミュレーションになっているのでしょうか。その確認をお願いします。

(野田会長)

これはどうでしょうか。

(石附企画政策課主査)

6ページをご覧くださいませでしょうか。6ページの「基本目標の関係データ」でございますが、こちらの中に創業比率の愛知県平均と清須市の推移が出ています。愛知県平均と比べますと、清須市は1ポイントくらい低い状況にあるということで、まずは創業したいという方が創業しやすい環境をつくることで創業件数を増やしていきたいというところが、大きな目標として置いているところでございます。

こちらの1ポイントというのはどれくらいの比率なのかということですが、下の事業所数の推移を見ていただきますと、2016年の経済センサスにおきましては市内に約2,500の事業所がございまして、創業比率を1ポイント上げるためには25件の創業の増加が必要となります。廃業される事業者さんもみえると思いますので、事業所数を維持するためにも、現状の創業比率から1ポイントの増加を目指していきたいというところでございます。

(野田会長)

山田委員、どうでしょうか。

(山田委員)

8ページの「創業支援事業による創業件数」の目標値の25件というのは、この差を埋める25件。ということは、通常の創業する方は別立てである程度確保でき

ている上で、創業支援でプラス 25 件というイメージを作っているということでしょうか。

(石附企画政策課主査)

はい。そのような形のイメージをしているところです。

(山田委員)

比率が非常にもやっとしてしまうのは、創業比率というのは「新設事業所数を年平均にならした数」を「期首の既存事業所数」で割った比率ですので、創業が伸びた翌年は分母が大きくなるので、割合としては創業件数が同じ数でも下がる可能性があるということになるのですね。

純粹に創業の数だけを表に出していただいた方が、伸びは分かるような気がするのです。全国平均を取ろうと思うと難しいと思うのですが、実質清須市の事業所がどれだけ増えているのかというのを表面に出すことを目的とするのであれば、そちらの方が早いような気がします。分かりやすいと私は思います。

(野田会長)

ありがとうございます。確かにそうですね。年々創業数を加えた分母になっていきますし、連続性という意味でも、それは誤差の範囲だと言えないこともないので、件数で示した方が確かにボリューム感みたいなものは直感的に分かりやすいような気もしますね。

ただどうなのでしょう。ここは比率にすることによって、県の比率との対比を重視されているという、そういうことですかね。

(石附企画政策課主査)

そうですね。どこまでの水準を目指すかというところで、清須市の数値を出した上で、ここまでを目指すというところでも、それは一つ考え方としてはあるかなと思うのですが、やはりスタンダードな、どこまで行きたいかといった時に、まずは愛知県平均を目指していこうというところで、今回は設定しているところがございます。

(野田会長)

ただ、議論の中では件数も常に把握していただいて、実際には件数を目途にしながらやっていくというイメージですね。8 ページにも書かれているので、今の山田委員のお話の一部は対応できている部分もあるのですが、もう一回再考いただいて、どれが現実問題として計画が分かりやすいかということですね。ご検討いただければと思います。山田委員、今のような方向性でどうでしょうか。

(山田委員)

創業した数の全体数がやはり何らかの形で見られたら良いですね。今だと増加する部分にフォーカスして施策を打つよと言っているのですが、全体の創業数がある、その一部に施策によって創業した件数が入っているというイメージでしょうか、全体数が幾つかというのはやはり大事なような気がします。

(石附企画政策課主査)

そうですね。山田委員がおっしゃるとおり創業数と、あとはもう一つ施策の効果によって廃業数、そちらも当然減らすということが目標でありますので、創業数と廃業数、そちらの推移というのはお示しさせていただいてもいいのかなということは今思いました。

(野田会長)

新たに表を増やすというよりは、注書きで書くなり、どこかに読み取れる部分があると良いかもしれませんね。創廃業数、純創業数になるのかもしれませんが、そういったものが分かりやすい形でご検討いただければと思います。

他にどうでしょうか。よろしいでしょうか。

そうしましたら、資料6-2については、一応こういう形で、今いただいたご意見を踏まえて検討を進めていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

「異議なし」の声

(野田会長)

ありがとうございます。ご承認いただいたということで、進めさせていただきたいと思います。

続きまして、一番ボリュームのある資料6-3です。今観光など具体的なところまでご意見をいただきましたけれども、どのような観点でも結構でございます。ご意見、ご質問なりいただければと思いますが、いかがでしょうか。

皆様の関心のあるところを中心に見ていただくと、分かりやすくなるかなと思います。高山委員、お願いします。

(高山委員)

すみません、高山でございます。細かいところばかりなのですが、幾つかお願いします。

これもパブリック・コメントに出るのですかね。文章の中で、16ページの「学校教育の充実」のところですが、現状と課題の上から五つ目、地場製品の提

供に取り組む、学校給食での地場産品の提供というところなのではすけれども、この理由としてここでは「学校給食を通して地域とのつながりを知る機会を提供するため」とありますが、右側 17 ページの「施策の展開」の 9 番のところですね、「児童・生徒が安全・安心でおいしい給食を食べられるよう」にするために、地元産の農産品を使うことに取り組んでいきますよとなっていて、理由がすれ違っているように見えてしまうのがちょっと気になったところです。言い回しの問題なのですが。

(野田会長)

いや、結構だと思いますよ。前の方に恐らく「安全・安心」を入れるなり、後ろと整合が取れるようにすべきだと思います。

(高山委員)

多分 17 ページの行数を増やせなくなったのかなと推測しますけれども。

あとは 18、19 ページの「施策 204 ひとり親家庭への支援の充実」について、例えば母子家庭の自立支援といった場合に、中には離婚されて養育費を確保できないとか、元夫の方が資産はあるけど養育費を出してくれないというケースも中にはあるのではないかなという気はするのですけれども、市からの援助ばかりではなくどこかに、解釈としては 19 ページの 3 番辺りでカバーする予定なのかなというところで、その辺りがこの概念に含まれているのかということをお聞きしたいです。

また、24、25 ページの「施策 302 地域福祉の充実」のところで、「現状と課題」の三つ目に「民生委員・児童委員や人権擁護委員の活動を積極的に市民に周知する」とあるのですけれども、25 ページには周知のことが全く書かれていないのが、見ていてちょっと気になったところです。

あとは本当に細かいことなのではすけれども、34 ページの「施策 401 市街地整備の推進」の「現状と課題」の六つ目、3 行目にスペースが入っていますので、ちょっと細かいことばかりではすけれども、よろしくお願いします。

(野田会長)

非常にありがたいです。このまま印刷するわけにはいきませんので、34 ページの空白は取っていただくということですね。

順番にいくと、最初のお話は解決したとして、18 ページの「現状と課題」の三つ目の課題について、例えばもし両親が別れた場合に、どちらかが資産があるという時に、その問題を行政がどう対応するのか。対応できる部分については、19 ページの例えば相談支援体制のところに含まれているのかどうかということですね。この点はどうでしょうか。

(石附企画政策課主査)

高山委員からのご質問につきまして、適切な支援につなげるという部分でよろしいですかね。様々な支援、行政だけではなく例えばNPOであったり、色々な支援があるとは思いますが、そういうところにつなげるというようなイメージということでもよろしいでしょうか。

(高山委員)

はい。それで良いと思います。

(石附企画政策課主査)

分かりました。19ページの「施策の展開」の3番でございますけれども、この「相談支援体制の充実」というところでそういった取組をイメージしているところでございます。そういった悩みを抱えている方がまずどこに行けばいいのかということが分かる状態を作ること、これがまず大事なことだと考えています。ここに来れば相談ができるということで、ひとり親家庭の施策では表記していませんけれども、15ページの施策202、「施策の展開」の5番でございますが、子育て世代包括支援センターというものを現在設置してまして、そちらを含めていわゆるワンストップで、ここに行けば何かしらの支援が受けられるということを市民に知っていただいて、ひとり親家庭の方も悩みをそこで相談していただいて、適切な支援が受けられるという状況を作っていくことが重要だと考えています。

(野田会長)

ありがとうございます。もう一つは、24ページの「現状と課題」、要するに課題として、民生委員・児童委員や人権擁護委員の活動の周知が必要だということが記載されているので、「施策の展開」のどこかにこの課題を受けた周知を行っていくということ、どこに入るのかというのは、全部に入るような気はするのですが、ここはご検討いただければなと思いますが、いかがでしょうか。

(石附企画政策課主査)

「現状と課題」の三つ目、活動内容を市民に周知して活動内容を地域の中に浸透させていくというところですが、「施策の展開」の1番、「民生委員・児童委員との連携」というところでございます。市としましても民生委員・児童委員の方が例えば学校で子どもさんたちに、こういう活動をしているよということを周知するキャンペーンをやったり、そういったことをやっているのですが、市もそれを支援するような形で取組をしているところであります。この連携というところで周知も含んでいると考えてはいますが、今ご意見いただいたように、より知っていただくために、もう少し項目を立てても良いのかなと思った次第でございます。

(野田会長)

項目を立てるなり、もしくはどこかに含めて、もう一回再考いただければと思います。

他にどうでしょうか。どんな観点でも結構です。福田委員、お願いします。

(福田委員)

色々気が付いたこととか、他のところから得た情報とか、そういうようなことでもよろしいでしょうか。

まず最初に7ページですけれども、特に4番とか、5番の方が主になるかもしれませんが、先日もテレビのニュースで訓練のことをやっていたのですけれども、本当に避難する時の体験というのをやっていたのですね。3日後とか、1週間後とか、それから1か月後、3か月後、3年後、そういうような実際の体験をしていたのですけれども、本当に言葉だけで意識とか体験とか言うのですけれども、ただの訓練だけではなくて、本当にそうなったらどうなるのだというような、そういうところを実際にやっていただけたら嬉しいなというふうに思います。

それから、備蓄品についてですけれども、新聞とかは色々な広告とか宣伝が主になっているものですから、本当にこの清須市で災害が起きた時に、特に水害だと思うのですが、そういう時にどんな備蓄品を用意したら良いのかとかそういうようなことを、危険マップみたいなものを作られた時に保存版みたいな感じで、清須市にはどんな備蓄品が必要なのだろうかとか、そういうことをもうちょっと具体的に教えていただけると、市民も「行政の方もこんなに努力してもらっているのだ」ということがよく分かるのではないかなと思うのですね。ただ市民に「やりなさい」と言うだけではなくて、行政もこういうふうに応援しているのだよというところを見せていただくとありがたいかなというふうに思います。

それから、9ページですけれども、「5 交通安全活動の実施」というところで、「児童・生徒の登下校時の安全を確保するため」とありまして、本当に清須市は見守り隊の方が朝も帰りもよく見守ってくださるのですが、そういう方たちが学校へ来るまでの危険場所とかそういうことを把握して、それを行政とか学校に教えていただきたいと思います。学校ではなかなか地域まで、出ていくのですけれども、時間的な問題もありますので、毎日毎日もお見せしませんし、そういうようなところで防災関係、学校、それから行政さんの方でうまく連携を取って、見守り隊の方とやっていただけたらなというふうに思います。

それから、17ページに「4 地域のことを学ぶ機会の充実」という項目があるのですけれども、児童・生徒に地域のことを色々知ってもらうことは本当に大事なことなのですが、なかなかお父さん、お母さんは忙しいものですから、学校の先生方に私もよく言っているのですけれども、学校の先生方にフィールドワークで夏休みとかそういう時に研修を1日、清須市にはこんな特徴があるのだよとか、こんな観

光施設があるのだよということを先生方によく知っていただいて、それで日常の会話の中で「こんなところがあるのだよ」「こんな面白いところがあるのだよ」「行ってきたけど、面白かったよ」なんていう、そういう話を聞かせてもらえたら良いかなというふうに思いますし、それから学校支援ボランティアの方もそういうようなお話を時々していただいたら、子どもたちが郷土に関心を持つのではないかなということも思います。

19 ページのところ、先ほど3番のお話が出ていましたが、ひとり親のお母さんは本当に大変だと思うのですね。私も以前、他の市で相談員をさせていただいた時に、本当にダブル、トリプルでパートのお仕事をやっていたらという方がたくさんありました。資格とか技能、ハローワークなんかでも職業訓練をやっているのですが、ダブル、トリプルでパートをやっているとそういうところへ通いたくても通う時間がない。そういうようなことで、働きながら資格とか技能を身に付けるということで、少し働く時間を短縮して、行政さんの方でハローワークの職業訓練に必要なパソコン教室とか、美容院の美容資格を取るとか、そういう時に必要なおカネを援助していただく。それでその仕事に就いたら、援助していただいた分をお返りする。そういう制度が他の市でできていたのですが、私もそういう制度がありますよということをお話したこともあるのですが、そういう制度も考えていただけたら良いかなというふうに思います。

それから 21 ページの成人式ですが、実行委員会が企画・運営するようになってから、すごく良い成人式になったなということで、本当に今年の成人式は日本一ではなかったかなというふうに思っております。本当に素晴らしい成人式だったので、やはり今後もこの実行委員会が企画から練っていただいて、運営していただけたら良いかなというふうに思います。

25 ページの「4 ボランティア活動への支援」なのですが、今は70歳を過ぎてもお仕事をされる方があるということで、本当にボランティアをする方というのが高齢化してきていて、75歳以上とか、80歳代の前半とか、そういうふうになってきているものですから、そうすると車の運転とかそういうことは免許を返納しなさいということで、本当にやりたい人がその場所に行って、施設なんかに行っていない状況になっているのですね。ですので、老人施設なんかでデイサービスの人をお迎えしたり、お送りしたりする間の時間帯に、地域を回っていただいてボランティアさんの足の確保をしていただだけませんかというようなお話を私もよくさせていただいたことがあるのですが、その施設を利用する方ではないとだめなのかな、そういう問題があるのかなとか思いながらも、何かそういうボランティアの方の足の確保ができる方法があったら、もっとたくさんボランティアさんが増えるのではないかなということをおもっております。

それから最後にしたいと思いますが、27 ページの「2 介護予防の推進」とか「9 高齢者を対象とした各種教室・講座の開催」ということで、本当に今よくやってい

ただいでいて、介護予防の「やろまいか教室」とか、それから「いこまいか教室」とか、それから「チャレンジ教室」とか、随分色々な講座とか催し物がありますので、そういったものはぜひ続けていただきたいなというふうに思います。それから「げんき大学」とか、先ほどの「チャレンジ教室」もそうですが、本当に高齢者の方が外へ出ていくだけでもすごく元気になれると思うものですから、高齢者が外へ出られるような機会をたくさん設けていただきたいなというふうに思います。

そのためには足の確保も大事なのですが、今「あしがるバス」がたくさん走っていて、便利に計画をしてもらっているのですが、本当にそこを利用しようと思った時の時間帯がうまく合わないということで、総合福祉センターなんかでも行きは良い良い帰りは怖いで、帰りの時間がないとか、それから直通で市役所とかそういうところへ帰れるバスがないというようなことで、その辺りでちょっと不便を感じていらっしゃる方があって、何時頃に講座とか色々な催し物が終わるのだけれども、それから乗るバスがないとか、そういうようなことをよく耳にしますので、そんなことも色々お考えいただけたらありがたいなというふうに思います。拙い意見ですけども、ありがとうございました。

(野田会長)

ありがとうございました。7ページ、9ページ、17ページ、19ページ、21ページ、25ページ、27ページですね。全てにおいて何か文言を修正したりとか、計画を変えるというものではございませんので、具体的な中身として工夫をしてくださいというお話ですので、しっかり受け止めていただいたかなと思います。録音もさせてもらっていますので、また原課の方に持ち帰っていただいて、今後の事業の展開の際にご検討いただければと思います。ありがとうございました。

皆様どうでしょうか。堀田委員、お願いします。

(堀田委員)

先ほどの補足みたいな話ですけども、50ページに「清洲城を中心とした観光施設への誘客を地域経済の活性化につなげる必要があります」と書かれています。商工会の方としても青年部が、阿智村の商工会の青年部に刺激されたかどうかは知りませんが、阿智村は「星の見えるまち」ということで有名ですけども、あれは阿智村の商工会の青年部が仕掛けた企画なのですね。随分苦勞をして、時間をかけてやったのですが、今は見事に有名になりまして、観光客がすごいのですけれども、それにある程度刺激されたと見えて、青年部がこの冬から、清洲城を中心としてイルミネーションで飾ろうという計画をやっておりますが、何せおカネがかかるので、400万円くらいかかるというのですけれども、この財源はどうするのということだったらとにかく皆様から寄附を願うということで、5年計画くらいでやるかということで始めているのですけれども、産業課の方にもお手伝いをしてほしい

など思っております。

商工会の青年部と言いますけれども、今は後継者が減りまして、お店がなくなってしまっているの、後を継いでくれる息子連中が激減しているの、青年部の会員もものすごく減っているわけですね。ですので、人の問題もあります。それからおカネの問題もありますけれども、特に募金募集も産業課の方でもお手伝いしてくれるとありがたいなと、やれるかやれないかは分かりませんが、お願いしたいなと思っております。

私も10年くらい前に、もっとすごい計画があったのですが、挫折した経験がありますので、本当にやってくれるのか、本当に思っているかなと思うのです。何を計画したかといったら立佞武多（たちねふた）を清洲城に持ってくるという計画があったのです。五所川原市が信長を題材とした立佞武多を作るということで、当時私は観光協会の会長をやっている、清須を案内して、信長の総見院さんにも連れていった経験があって、立佞武多の隣に脇佞武多というちょっと小ぶりなやつがあるのですが、それを清須市にという話が持ち上がったので、ぜひお願いしたいと。これが紙でできているので「大丈夫ですか」と聞いたら、特殊な紙なので雨ざらしでも3年間大丈夫という言い伝えですね。それから「どうやってこれを持っていくのですか」と聞いたら、それでは3等分にしましょうということで、持ち運びできるように3等分にして持ってくるという。では「誰が運ぶのか」といったら、当時の市議会議員さんで高山運輸の高山萬三さんという方がみえて、「俺が運ぶからいい」ということで着々と計画はあったのですが、どういう理由かボツになって、五所川原市に謝りに行ったという経緯があるので、本当なのか、本気になっているかなと思って、私としては非常に疑心暗鬼なので、書いてある以上絶対に約束を守ってほしいと思っておりますので、こんな席でこんなことを申し上げてはいけないのですけれども、お願いします。以上です。

（野田会長）

ありがとうございます。計画に書いて実行しないというのはやはり批判されますので、そこは入念に、市民の方も注目していますので、しっかりとご検討いただければと思います。

青年部の方がリーダーシップを発揮されてという、これは全国的に昔からされていることだと思いますし、ただ後継者不足でどんどんその力が弱くなってきている。それは青年部とか商工会だけの話ではなくて、市全体の話ですので、ただ一方で予算の話もありますので、全体の優先順位を考えていただきながら、どの政策をやっていくのかということをして市役所の中の職員と、あとは地域の商工会の方も含めてご検討いただければと思います。ありがとうございます。

他にどうでしょうか。どんな観点でも結構です。後藤委員、お願いします。

(後藤委員)

体育協会の後藤でございます。私は体育協会ですので、64ページの「施策 604 スポーツ・レクリエーション活動の振興」というページで、スポーツ課の色々な「施策の展開」を読んでいたのですが、既成のイベントを今後もやっていきますよというようなことが書いてございますが、2番の市民体育祭なんかは私が前から言っているように、市が合併して、今は4地区でバラバラに市民大会をやっていたりしているのをまた再度持ち上げようということで、全市で市民大会とかそういうことをやってもらいたいと思います。その実現に向けて協力できるかなとは思いますが、いかんせん集まる場所がないと。こういう中に箱物を作ってくださいとかそういうことは書きにくいのだろうなとは思いますが。先ほど商工会長さんが言われたように、書いて約束が守れなかったらいかんじゃないかと。整備に努力しますとか、そんなことは書けるのかなと思います。アンケートなんかを読んでいると、子どもが遊ぶ公園はあちこちに見られるけれども、若者が遊べるような公園とかはあまり清須市にはないというようなことがたくさん書いてありました。私が思うには、清須市のそういったものも含めた総合運動公園みたいなものを、長いスタンスで良いので計画の中に入れていっていただけると、いずれはオール清須の市民体育祭とか、野球大会とか、サッカーとか、発展すればプロ野球とか、Jリーグとかを誘致できて、もっと人が呼べる清須になるのではないかなと思います。そんな中には、子どもも遊べる公園も含めて計画すれば良いのではないかなと思います。庄内緑地みたいなバーベキュー場とか、そういったものも備えている、そういう公園を整備する方向で頑張っていただけるとありがたいと思います。

それともう一つ、先ほどから観光の方の関係で、お城とか、朝日遺跡とか、美濃路とか色々あって、それが清須市の発展に寄与するようにするためには、人が集まるような魅力のある施設、店舗とかも含めて集まると良いと思うのですが、バラバラに来ていても皆様そんなところに魅力は感じないのではないかと正直思います。これは行政主導で、観光団地みたいにお店を1か所に集めて、「おかげ横丁」ではないけれども、二番煎じ、三番煎じがたくさんできているので成功するかしないかは後の運営次第だと思うのですが、そういう場所を行政が提供すれば、お店屋さんにして、先ほど堀田会長が言われたように、やる人はいくらでもいるぞということからいけば、まずは場所を提供してあげて、「道の駅」でも何でも良いかなとは思いますが、清須に人が来るようなことを考えていただけると、もっと発展するのかなと思いました。ただ、この施策の中には書きにくいなと思ってずっと黙っていましたけれども、戯れ言として聞いておいてください。ありがとうございます。

(野田会長)

ありがとうございます。二つご指摘をいただきました。この計画を変えるという

よりも、これも中身に関するお話で、すぐに実現できないことかもしれないのですが、常にそういう起爆剤みたいなものがないと一気に時流に乗れないという部分もありますし、顔を作っていくということになかなか着手できませんので、常にそういう意識も踏まえてご検討いただければなと思います。スポーツ施設関係と、それから観光に関わる場ですね。「おかげ横丁」を含めたような、ああいう場を提供するということです。

他にどうでしょうか。一応本日皆様のご意見を踏まえたものは、もう一回審議会があるのですけれども、もし今お伝えいただけることがあれば、ぜひお願いできるとありがたいなと思います。山田委員、お願いします。

(山田委員)

細かいところの話ですが、53 ページの「3 企業の再投資への支援」で、「地域の経済・雇用の基盤を支える商工業者の活性化を図るため、企業の再投資に対する支援を行います」という文章なのですが、これはどういうものを想定されているのでしょうか。

(野田会長)

要は「再」というのがちょっと引っかかるという、そういうイメージですね。どうでしょうか。

(石附企画政策課主査)

こちらの「企業の再投資への支援」ですけれども、既存の市内にある事業者さんが新しく雇用を生むような、例えば先端産業などの設備投資をする際に、市が支援をするための補助を行うことなどを想定しているところでございます。

(山田委員)

イメージは湧きました。固定資産税を免除するとか、そういうイメージのものでしょうか。

(石附企画政策課主査)

そうですね。

(山田委員)

私たち会計人の中ではその文言自体がありますので、できればそういった文言があった方が、多分濁したのかもしれませんが、再投資というのは非常に分かりにくいので、ご検討いただけると良いかと思います。

(野田会長)

もしあるとしたら「何々など」という、「再」が必要かどうか分からないですけども、再投資もしくは投資に対する支援を行いますというように、「何々など」みたいな言葉があるとなおのこと良いということですね。書けない部分はもちろん書けなくても良いかと思いますが、よろしいですかね。

他にいかがでしょうか。渡辺玲子委員、お願いします。

(渡辺(玲)委員)

私は障害の方をやっております「手をつなぐ親の会」の渡辺と申します。よろしくお願いいたします。

障害福祉の方は10年前に比べれば随分と進みまして、親の方も大分楽という言い方は変なのですが、大分助けを受けることができるようになってきて、良かったと思っております。

ですけども、これは子育てになっていくのか、学校教育になっていくのかちょっと分かりませんが、どうしても重度の方とか、家にみえる方もまだみえると思います。福祉が進んできたせい、せいというのも変なのですが、学童の方が児童デイサービスとか、放課後とかで色々な事業所の方が学校まで迎えにいて、また家まで送ってきてくれるというようなことを使ってみえる方も随分多くなってきました。その分、親子の親密な関係という大変ですけども、親子関係がどうしても稀薄になるということが見られるのではないかと私は考えております。どうしても母親が働くという必要性もあるのですが、そういうことをなくすためにも、母子で通うというところが少ないのではないかなと思うのです。私が住んでいるのは小田井の方ですので、近くに重度の方の施設ができ、西区の方にもでき、そちらは学校へ行く前の方が通う所だと思うのですけれども、そういうところはできているのですが、どうしても親子で通う所というか、そういう施設は本当はないと思うのですね。

全体でたんぽぽ園が西枇杷島にあるとは思いますが、それも半日とか、そんなに充実、充実という大変ですけども、ずっといられるわけではないと思うので、日曜日にぜひという方もいるので、毎日ではないので、そういうところは市の施策の方で考えていただけると良いのかなと思います。

福祉関係、学校教育、どの分野に入っていくのか分かりませんが、そういう施設を作っていただきたいかなと思います。大きな意味で考えると児童発達支援センターというのができれば問題ないでしょうけれども、そういうのはちょっと難しいところがあると思うので、そういうところも考えていただけたら良いかなと、これは私の希望でありますので、聞いていただくだけでも構いませんので、ありがとうございます。

(野田会長)

ありがとうございます。今のお話は福祉施設に限らず、普通に一市民として活動できる、色々な場でそういうご検討をいただければと思うのですけれども、一方なかなか普通のところでは難しいということであれば、今おっしゃられたような施設、ただそういう施設は恐らく都道府県レベルとかちょっと階層が違う可能性もあるので、他と連携しながら今後の検討の材料にしてもらえればなと思います。ありがとうございます。

他にどうでしょうか。よろしいですかね。あんまり引き延ばすともう 12 時半くらいですので、怒られてしまいますので、もしあればと思いましたが、なさそうですかね。一応今回いただきましたご意見を踏まえて、次回また修正版を作らせてもらいたいと思います。

本日の資料、これを基にしながら進めるということで、事務局案のとおり進めるということでよろしいでしょうか。

「異議なし」の声

(野田会長)

ありがとうございます。ご承認いただいたということで進めさせていただきます。

以上で本日予定されていた議事は全て終了しましたが、最初の方でもし何か言い忘れた点とかいうことがございましたら、お受けしたいと思いますが、皆様どうですか。何かございましたら。よろしいですかね。

ありがとうございます。そうしましたら、以上をもちまして第3回 清須市総合計画審議会を終了したいと思います。

皆様どうもありがとうございました。

そうしましたら、事務局から事務連絡などがございましたらお願いしたいと思います。

3 閉会

(後藤企画政策課長)

皆様方、長時間にわたりまして慎重審議、大変ありがとうございました。

本日皆様方からいただいたご意見等を踏まえまして、次回の審議会でお示しをさせていただく後期基本計画の案の作成を進めてまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

なお、次回の第4回審議会につきましては、9月25日の水曜日、午前9時半からを予定させていただきます。勝手を申し上げて申し訳ないですが、スケジュールの調整の方をよろしく願いをしたいと思います。詳細につきましては、改めまし

てお知らせをさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

本日、再度にわたりますが、長時間にわたりご審議いただきまして誠にありがとうございました。

これをもちまして終了とさせていただきますと思います。お帰りの際は交通事故等遭われないように、お気をつけてお帰りください。お疲れ様でございました。

問い合わせ先	企画部 企画政策課 電話 052-400-2911 (内線3251)
--------	---------------------------------------

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するためここに署名する。

署名委員 時田 榮一

署名委員 堀田 忠彦